

## ホンダの大量クビ切り

### 道理のない期間工1760人の雇い止め

1月16日、ホンダ鈴鹿製作所が期間工1760人全員（全体で4300人）に雇い止めを通告して以来、このクビ切りをストップさせようと、私たちは共産党として、また労働者や組合とともに、活動を進めてきました。

1月19日 市議団として川岸市長に、雇い止めをやめるようホンダに働きかけることを要請。

1月23日 共産党三重県委員長らとともに、ホンダ鈴鹿工場に出向き要請。また 三重県労働局にもホンダへの解雇は不当であると申し入れ。

2月4日 ホンダ門前で勤務あけの労働者に大宣伝。瀬古ゆき子さんらと宣伝カーから訴え、ビラ配布。

2月8日 文化会館で共産党主催の集会。ビラやネットを見て集まった期間工の皆さんが組合結成を相談。

2月9日 東京のホンダ本社に出向き、国会議員団とともに雇い止め撤回を申し入れ。厚生労働省にも、現地への指導を要請。毎週、門前宣伝。

3月4日 市議会本会議で、森川議員が川岸市長に、ホンダ に対して雇用の維持を要請することを再度求める。

2月16日 期間工の当事者である若者たちが組合結成、ホンダに解雇撤回を求め活動を始めました。何しろ天下の大企業を相手のたたかい、そう簡単には勝てませんが、人をモノのように使い捨てる会社は許せないと、頑張っています。道理は彼らの方にあります。私たちも全力で応援したいと思います。



2月9日、東京のホンダ本社交渉。一番右が石田

# 今どき、自動車を持ってはいけない？

## 生活保護制度、実態に合わせた柔軟な運用を

3月4日の本会議一般質問で、私は「派遣切り」などで要望が増大している生活保護について、困っている市民の実態に合わない制度の改善を求めました。その最たるものが、「自動車の保有を認めない」ということです。

最近派遣を雇い止めになって相談に来た男性Aさんは、生活保護支給の条件として「自動車の処分」を言われたので、やむなく業者に引き取ってもらいました。ところが古い車だったので、手数料などを引かれて1万円にしかありませんでした。Aさんは仕事を探して毎日走り回っていますが、自動車を手放してからは自転車で行ける範囲しか動けず、仕事の条件がますます悪くなりました。

私は、このAさんのような場合は、保護からの自立を阻害することになっている。「資産」とも言えない古い自動車を手放せとの指導は、実態に合わない指摘し、自動車の保有を一律に否定する制度の見直しを求めました。

## 自動車は「資産、ぜいたく品」は昭和38年の基準

福祉事務所長は、「派遣切りの場合など、保有を認めている例もある。車を処分すると、かえって再就職に差し支えるなど、ケースバイケースで判断する」と答えました。私は「廃車寸前の車は資産価値ゼロで、処分する方がカネがかかる。自動車を『資産』だとしたのは昭和38年の厚生省の見解で、そのころは確かに『ぜいたく品』だったが、今はそれどころか生活の必需品である。そんな昔の基準のままという方にムリがある」と、見直しを求めました。

また、困窮のあげくに窓口に来た市民は、手持ち金もなし、今日の生活が出来ない人もいます。即日の対応が必要だとの問には、「社協の生活資金を借りて、保護決定まで待ってもらおう。急迫の場合には即日の対応もしている」との答えでした。普通に保護申請した場合は、決定まで14日、長ければ30日もかかる現状を、少しでも短縮すること、その間の生活資金を提供できるようにすることを求めました。さらに、収入が上がっても直ちに保護廃止にせず移行期間を、との問には「2～3ヶ月は様子を見て、状況によってはすぐに保護再開できるようにする」との答えがありました。

# 子どもの医療費、妊産婦健診が充実

新年度予算の中で、昨年の9月議会で私が要求した「乳幼児医療費助成」が前進しました。現在は小学校入学前まで入院・通院とも無料化されていますが、これを「小学校卒業まで入院を無料化」するというものです。

また、妊産婦健診の無料化も、現在5回のところを14回まで拡大します。どちらも、子育て中の家庭にはうれしいニュースです。

## 財政ピンチで、建設事業先送りも

ホンダの収益悪化による影響が市財政にもストレートに出て、09年度予算は法人市民税収入が40億円もマイナスという、前代未聞の事態になりました。減収分は財政調整基金（貯金）から補てんしますが、これが来年もその後も続いたら、貯金も底をつき、大変なことになります。

新年度予算はその影響を少なめにしていますが、平田野中の移転事業などの大物が先送りになるなど、計画どおりの事業が難しくなっています。

## 会派をこえて17議員が開いた講演会

2月28日、「鈴鹿の農業を考える議員の会」が主催して「地産地消と子どもの食」講演会を、ジェフリー鈴鹿で開きました。農業、教育、行政など各方面から110人余が参加し、元長野県真田町教育長・大塚貢氏のお話に聞き入りました。

講演の内容は、荒れた学校を「食育」を中心とした取り組みで立て直した経験を語っていただき、参加者は「食」の大切さと、人間らしい暮らし、教育の原点とは何かについて深く学びました。

主催した議員の会は、会派を超えた17人で鈴鹿の農業を考える勉強会を続けています。

これだけの議員が同じ目的で集まるのは、「合併反対」で集まったとき以来の快挙です。



講演する大塚貢・元真田町教育長



## 「めんこい仔馬」と戦争

私の住んでいる西部地域では、自治会や組からの連絡がある時は放送が行なわれる。集会所の上のスピーカーから四方に声が響き渡るのであるが、その放送を他所の地区のものと区別するために、「テーマソング」をまず流してから用件に入る。わが伊船新田のテーマソングは、童謡の「めんこい仔馬」で、この歌が流れてくると窓を開けて放送に聞き入るのである。

ぬれた仔馬のたてがみを 撫でりゃ両手に朝の露  
呼べば答えてめんこいぞ オーラ 駆けて行こかよ 丘の道  
ハイド ハイドウ 丘の道

この歌は、昭和16年3月に制作された映画「馬」の主題歌として、サトウハチロー作詞、仁木他喜男作曲でつくられた。今では仔馬と子どもが楽しく過ごす様子をえがいた童謡になっているが、元は日米開戦の直前に作られた、戦意高揚のための「軍歌」なのであった。

### 戦後に消された歌詞、あの「蛍の光」も

今では歌われていない3番、5番の歌詞は、次のようになっていた。

- 3 紅いべべより大好きな 仔馬にお話してやるか  
遠い戦地でお仲間が 手柄を立てたお話を
- 5 明日は市場かお別れか 泣いちゃいけない泣かないぞ  
軍馬になって行く日には みんなでバンザイしてやるぞ

3月は卒業式のシーズンである。最近では歌われなくなったが、卒業式といえば歌われたのが「蛍の光」である。この「蛍の光」も、今は1番、2番しか歌われませんが、実は3番、4番があり、これも「軍歌」になっていた。

- 3 筑紫の極み 陸(みち)の奥 海山遠く隔つとも  
その真心は隔てなく 一つに尽くせ 国の為
- 4 台湾の果ても 樺太も 八洲(やしま)の内の守りなり  
至らん国に勲(いさお)しく 努めよ我が背 恙(つつが)無く

「歌は世につれ」と言われるが、このように消された歌詞がまた復活して歌わさせられることのないように、注意を怠らないようにしたい。